

長野県議会定例会一般質問

2月定例会の一般質問を報告いたします。「長野県の産業教育」、「小中学校体育館のエアコン設置」、「県の獣医師職員の確保」、「県内の木育の推進」の4テーマを取り上げました。



一般質問はこちらから視聴できます



【長野県の産業教育】

少子化時代における長野県の産業を担う人材育成の観点から、県立高校における商業・工業・農業の専門教育をどのように再構築するか。また、農業や工業の高等学校専攻科の設置方針を伺う。

(教育長)専門学科では専門分野の基礎基本の定着と、社会の変化に柔軟に対応できる力を育てることが重要。従来の専門学科の枠を超えた学びを実践する「総合技術高校」を各地域に配置すべく再編を進めている。農業や工業の専攻科は高校3年間の学びを発展させ、より高度な専門知識・技術を学ぶ場として、市町村・産業界等の意見を聞きながら設置を検討する。(※専攻科は高等学校卒業後にさらに専門的な実習・研究を1～2年行う課程のこと。)国の「ネクストハイスクール構想」に関し、県立高校の専門学科の取組を伺う。

(教育長)産業界のニーズに対応した施設整備や専門学科の機能強化、高度化を図るため、改革を先導するパイロット校を選定し国へ申請する。



県民文化委員会質疑の様子

令和11年に長野県で開催される第39回全国産業教育フェアについて伺う。

(教育長)全国産業教育フェアでは2日間で全国から約5万人の来場を見込んでいる。産学官が連携し準備を進める。専門高校等の学びへの県民の理解と関心を高め、新しい時代に即した産業教育の発展を目指す。県立高校の「信州学」の実施状況や人材育成の支援策はいかがか。

(教育長)本県の歴史や文化、自然、産業等を学ぶ本県独自の「探究的な学び」である「信州学」はすべての県立高校で実施し、県は費用面を支援している。産業界をはじめ多様な関係者と協働した学びを推進し、地域の未来を担う人材育成につながる取組を進める。中学校のキャリア教育で専門学科の魅力をPRしてはどうか。

(教育長)本県の専門高校では、南安曇農業高校の下水汚泥肥料をつくる取組等、レベルの高い特色ある取組が行われている。来年度は専門高校の行事等を紹介する「専門高校ガイドマップ」を作成し、全中学校に配布し、学びの魅力を中学生や教員に広く周知する。



春を迎えたわさび田

【小中学校体育館のエアコン設置】

県内公立小中学校体育館における空調設備の整備状況と課題はいかがか。

(教育長)市町村が整備するが、設置率は4.4%。学校施設の老朽化が進む中、体育館等の空調設備を優先しにくいこと、断熱工事等の費用負担が大きいたことが課題。県は市町村が国の補助制度を活用できるよう情報提供や相談対応し支援する。災害時の避難所の環境改善を進めるため、GHP(ガスヒートポンプ)方式等災害時にも対応可能な空調導入はいかがか。

(危機管理部長)市町村は避難所に応じた対策や施設改修に取り組み、県は可搬式空調や発電機を手配している。優良事例や国の財源措置(GHP方式含む)を紹介し災害関連死を防ぐ体制づくりを進める。

【県の獣医師職員の確保】

全国的に行政獣医師の不足は深刻で構造的な課題がある。現在の採用状況と、課題はいかがか。

(健康福祉部長)近年、募集定員10名に対し、採用者は5～7名に留まる。獣医師の多くが動物病院・大都市圏での就労を選択することが課題。県は獣医系大学の就職説明会で、行政獣医師の仕事ややりがいのPR、待遇や採用条件などを見直してきたが、自治体間競争となっている。就学資金給付事業等により獣医師確保に取り組む。

抜本的な獣医師確保対策にどう取り組むか。

(知事)行政獣医師の給料処遇のさらなる改善を検討する。児童生徒が食や畜産に関わる獣医師の仕事に魅力を感じる環境も作り、国へ制度面等での改正・支援を強く要望し、総合的に対策する。

県議会6月定例会

6/18((木))開会、6/23(火)～26(金)一般質問、6/29(月)～7/1(水)各委員会、7/3(金)閉会

※YouTube

「長野県議会チャンネル」で視聴可能です。ぜひご覧ください。



【全県での木育の推進】

木育を地域産業振興につなげるため、家具・木工・木のおもちゃ産業との連携をどのように進めるか。

(林務部長)県は首都圏等での商談会に県内事業者・木工家の出展や、信州ウッドコーディネーターを通じた展示・販売会等、産業界との連携を進めている。さらに市町村と業界との連携を促し、県産材活用の木製品の販路拡大を進める。「信州やまほいく」と木育の親和性は高いと考えるが、本県の子ども・子育て施策における木育の推進はいかがか。

(子ども若者局長)森林づくり県民税を活用し県産材の木のおもちゃや遊具の普及、保育所や児童センター等の木造化・木質化を支援してきた。「信州やまほいく」認定園か否かに関わらず、保育所等で木製の遊具・家具・玩具の導入、枝や木の実を活用した遊びなど取り組んでいる。

木工・木育産業振興の中核である上松技術専門校の施設老朽化についてどのような認識か。

(産業労働部長)竣工から32年が経過しており、エアコン設置、訓練環境の改善、訓練機器の更新やデジタル機器の導入等整備を進めている。上松技術専門校は、「木曾谷・伊那谷フォレストバレー基本構想」の地域の木材産業や伝統工芸の重要な担い手育成機関でもあり機能の維持・強化を進める。森林資源が豊富な本県において木育が県民にとって身近になるため、全県で推進すべきでは。

(知事)木育は、幅広い年代が木に親しみ、自然とつながる感性を育み、森林や木材への理解を深める極めて重要な取組。市町村では、森林環境譲与税を活用し「ウッドスタート」や積木イベント等の住民に身近な取組が広がっている。県では森林づくり県民税を活用し、信州やまほいく認定園の野外活動や学校林の環境整備など、幅広く木育の支援をしており、引き続き取り組む。



積木で遊ぶ